

平成29年度 第4回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会
議 事 録

日 時：平成30年3月2日(金) 10時00分～11時10分

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員：四釜みちこ(札幌市立大倉山小学校PTA副会長)、吉田重弘(宮の森明和会会長)、渡辺寛志(札幌市立三角山小学校校長)、國松明日香(彫刻家)、寺嶋弘道(本郷新記念札幌彫刻美術館館長) 以上5名

欠席委員：斎藤義晶(札幌市市民文化局文化部文化振興課長)、坪田康嗣(宮の森まちづくりセンター所長)

事務局：垣内陽子(本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長)、山田のぞみ(同業務係事務職員)

- 次 第： 1 開会
2 議事
(1)平成29年度事業経過報告
(2)平成30年度事業予定について
(3)意見交換
3 閉会

当日配付資料：

- ・平成29年度第4回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・平成29年度本郷新記念札幌彫刻美術館事業経過報告
- ・アンケート集計結果(平成29年9月～平成30年2月分)
- ・本郷新記念札幌彫刻美術館平成30年度事業計画
- ・平成30年度開催事業チラシ(1種)
- ・札幌文化劇場 hitaru こけら落とし公演「アイダ」チラシ

議事内容：

(1)平成29年度事業経過報告

事務局より配付資料に基づき平成29年度本郷新記念札幌彫刻美術館事業の経過報告、およびアンケートの集計結果の報告をおこなった。

○西区民センターを会場におこなった「3日間だけのことに美術館」について

- ・國松委員：400人を超える来場者数は、素晴らしい成果。入館者数の伸び悩みの理由が、交通の便の悪さにあるということがわかった。アンテナ・ショップのように、美術館まで来てもらうきっかけとなる企画が必要だと感じる。
- ・四釜委員：他の区民センターでの開催も可能か。
- ・事務局：西区民センターについては、「3日間だけのことに美術館」と題した展覧会を以前2度開催しており、今回は先方からお声がけをいただいた。他の区民センターについては、これからリサーチが必要だ。
- ・寺嶋委員：他の施設でも、文化催事に関心をもっているところがあると考えている。今回の事業

にあたっては、本郷新自身についての新聞記事も掲載され、一般の方にその存在をあらためて知らせることができた。

- ・吉田委員：中央区民センターも、押し花展などをよく開いている。参加者はそれほど多くない印象がある。
- ・寺嶋委員：今回、西区民センターからは開催日の中に平日を入れてほしいという要望があった。区民センターに別の用事があったり来た方の「ついで利用」を見込んでのことで、実際平日の来場者が多かった。
- ・四釜委員：他の区民センターで習い事をしているが、様々な催しがあると市民としてもありがたい。

○本郷新記念札幌彫刻賞受賞作の設置について

- ・寺嶋委員：西区民センターで移動美術館を開催する一方、大通には加藤宏子氏の受賞作品を設置した。美術館の存在をアピールする機会となっている。
- ・吉田委員：彫刻美術館ができたことで、この地域のステータスを上げてもらえた。(入館者数の問題ではなく)町内会としては、美術館があることだけでも意義がある。
- ・國松委員：入館者数の問題は難しい。意味のある展覧会でも、数が伸びないことがある。大通に彫刻賞の受賞作品が設置されたが、美術館とあの作品との結びつきがもっとわかるような工夫があるとよいのではないか。
- ・吉田委員：道新に掲載されていた記事では、つながりがよくわかった。とても良い記事だった。
- ・寺嶋委員：設置場所の向かいにある情報ステーションには受賞記念展覧会のフライヤーを置いているほか、作品の隣には彫刻美術館との関わりをふくめた賞の説明を書いた大きな表示を出している。

(2)平成 30 年度事業計画

事務局より配付資料の平成 30 年度事業計画について説明した。

(3)意見交換

○わくわく★アートスクールおよび近隣小学校の総合学習への協力について

- ・渡辺委員：わくわく★アートスクールは最初何をやるのだろうと思っていたが、点灯式の感動は素晴らしかった。いつもの体育館が美術館のように変わった。
- ・事務局：来年度も、近隣の学校のご協力を得て、準備を進めていきたい。
- ・四釜委員：児童の祖父母もふくめ、家族三世代で楽しみにしている事業だ。
- ・吉田委員：総合学習での三角山小学校の来校も、回数を重ねており素晴らしい。

○アンケート集計結果について

- ・國松委員：アンケートに寄せられた意見からの抜粋に、「解説が少なくてよかった」とある。最近の展覧会は解説が多い。本来の芸術鑑賞のあり方を考えると、芸術作品と観る人の対話が生まれる余地が必要だ。
- ・寺嶋委員：解説の出し方については、様々な議論がある。パネルのもつ良い面、悪い面を考えたしながら取り組んでいかなければならないし、展覧会のテーマによっても変わる。研究的な展覧会であれば、おのずと解説も多くなる。
- ・國松委員：知識のない時の見え方と、ある時の見え方は違う。必ずしも知識があるからよい見え方になるとは限らないということも考える必要があるのではないか。
- ・寺嶋委員：解説文の表現力の問題ということもある。見るときの感動は、何ものにも替えがたい。

- ・渡辺委員:アンケート回答に「来る前は美術館の前にバス停があれば良いのにと考えていましたが、自然の中を少し歩いて芸術に触れて、日ごろのモヤモヤがスッキリしました」という意見がある。皆こういった考え方になってくれればよいと思う。
- ・國松委員:教えられることの多い意見だ。たとえば彫刻賞の受賞作を宮の森緑地に設置して、散策しながら美術館に行くための道にできないだろうか。
- ・寺嶋委員:札幌市内には現在多数の野外彫刻があり、それをどう管理していくかが問題になっている。札幌市の考え方を踏まえながら、実現の道を探っていく必要がある。